



フランス西海岸に面したブルターニュ地方に海藻で生分解性プラスチックを作る技術を開発し、国際特許を取得した中小企業「アルゴパック」(www.algopack.com)がある。海岸に打ち上げられた海藻を集めて売る伝統的な職業「ゴエモニエ」を営む家庭に育ち、合成樹脂の大手メーカーに15年間勤務したレミー・ルカ氏(43)が長年の研究を経て、2010年に事業を始めた。

アルゴパックはブルターニュ

フランス発 海藻使った生分解性プラ

地方の海面で養殖した褐藻と化粧品などに使われた海藻の廃棄物を原料にして、粒状の素材を生産し、世界の樹脂メーカーに販売している。既存のバイオプラスチックとの違いについて、ルカ氏は「化学肥料や農薬の必要が無く、食糧資源と競合しない」と説明する。

合成樹脂の加工技術を応用でき、成形時に必要な温度も約50度下げられるという。価格は1ト約1800円(約24万6千円)で合成樹脂よりも20〜50%割高だ。16年から藻の養殖面積を12畝から145畝に広げる。16年の売上高は300万円を見込み、5年間でその10倍に増やそうと意気込んでいる。

最近、日本の大規模な食用海藻養殖にヒントを得て、地元ブルターニュで昆布やワカメを養殖する企業と提携し、その養殖廃棄物の利用も始めたそうだ。

(トレンドジャーナリスト

菊地広子)